

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「強く 正しく 共に生きる 下末吉の子」  
 ○自ら学び、自ら考え、問題解決する子どもを育てます。【知】  
 ○自分や人を大切にできる心の豊かな子どもを育てます。【徳】  
 ○生命を尊び、心身ともに健康な子どもを育てます。【体】  
 ○地域や人との豊かなかかわり合いを通して、共に生きる子どもを育てます。【公】  
 ○様々な社会の変化に、柔軟に対応できる子どもを育てます。【開】

教育課程全体で  
育成を目指す資質・能力

<自分づくりに関する力>  
 <問題発見・解決能力>  
 <情報活用能力>

具体化した資質・能力

自己の考えを深化させる力 主体的に行動できる力  
 他者と積極的に関わり理解しようとするコミュニケーションの力  
 自尊感情 自己肯定感 など

中期取組目標

「下小70周年 未来に繋ごう下小のバトン！」～見つめる→繋げる→広げる～  
 ○創立70周年を機に、小規模校ならではの本校のよさを見つめ直し、持続可能な学校づくりを進めます。  
 ○本校児童のよさを伸ばしつつ、「学力向上」や「中一ギャップ解消」などの課題解決に具体的に取り組みます。  
 ○コロナ禍で教育的価値を再確認できた地域との繋がりを教育活動に取り戻します。  
 ○「共有・参画・らしさを発揮」をベースに、働きがいのある職場づくりを進めます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
確かな学力	①読書・漢字(熟語)学習・視写に取り組み、読書力・表現力を高める。②重点研では、ICT機器の活用に取り組み、児童の情報活用能力の育成や思考力・表現力の向上を図る。③教科分担推進により、教科の専門性を生かした授業の実施や少人数・TTによる指導の充実により、児童の学力向上を図る。
担当	重点研・チーム学年経営

学力向上に関わる本校の状況

○読書は嫌いではないが、学年相当の本を手取る子は少ない。  
 ○文章を正確に読み取ることが苦手な子が多い。  
 ○語彙が少なく、自分の思いや考えを的確に表現することが難しい。  
 ○表現することに苦手意識を持っているので、自信をもって発言などができない。  
 ○情報を集めたり、整理したり、活用したりする力の育成が求められる。

今年度の目標

読書力や情報活用能力を高めることで、思考力・表現力の向上を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期  
 ○朝読書の充実  
 ・年間を通して読み聞かせを計画的に実施して、本への興味・関心を高める。  
 ・図書ボランティアと協力して、図書室等の読書環境を整える。  
 ・学校司書と連携を図り、学習と関連のある本や資料、お勤めの本を教室に配置し、朝読書などで手に取る機会を増やせるようにする。  
 ○スキルタイムを利用して、漢字学習や視写に取り組む。  
 ・定期的な漢字小テストなどで定着を確認する。  
 ○ICT活用による、思考力・判断力・表現力の育成  
 ・ICT支援員に依頼して、ICTを利用した思考力向上のための職員研修を設け、スキルアップを図る。  
 ・重点研究で、思考力・判断力・表現力を高めるための授業実践を検討していくとともに、児童にICT活用の機会を確保する。

下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①たてわり活動 各学年の役割やめあてを明確にし、自己評価や他者評価によって自尊感情を高める。 ②自尊感情から自己有用感へ 褒められる機会や交流の機会を作り、より広い視野をもつ。認め合う学習を積み重ねて自尊感情を高める。
担当	特活・道徳

豊かな心に関わる本校の状況

○素直であるが、一方で友達の意見に感傷されやすい傾向がある。  
 ○友達とは学年、性別関係なく遊んだり協力したりする姿がよく見られる。  
 ○小さい規模で生活しているため、人間関係についての緊張感が薄く、社会性に課題がある。  
 ○単級のため、友達作りの機会が極端に少なく進学時の「中一ギャップ」を感じる児童が多い。  
 ○たてわり活動で、高学年の責任感やリーダーシップが育っている。

今年度の目標

縦割り活動や学習の中で、より多くの人と関わり認められる機会を大切にすることで、自分で自分を好きになれるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期  
 ○自己有用感を高めるために  
 ・縦割り活動「なかよしグループ」では、高学年がそれぞれの役割をもち 行動することで、責任感や達成感を感じられるようにする。  
 ・他学年やたくさんの先生方に褒められたり、認められたりする機会を多く設ける。  
 ・年数回のY-Pの実施を通して、クラスの傾向や個人の自尊感情の高まりを捉える。  
 ○特別な教科 道徳  
 ・年に1回、道徳の学習を公開する。  
 ・道徳の学習の足跡を掲示したり、授業展開をどの児童にもわかりやすいように工夫したりする。

下半期

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①休み時間の外遊びについてスタンダードを見直し、ボール遊びや用具遊びなどを充実し、体力を高めるようにする。②学校保健委員会や給食指導を通して、児童・家庭・学校が健康生活への思いを共有し、コロナ禍でも健康な毎日を送る本校のよさを継続する。
担当	体育・保健

健やかな体に関わる本校の状況

○健やかな体に関わる本校の状況  
 ・横浜市体力・運動能力調査では、「自主的に運動・スポーツする時間をもちたいと思えるか」の質問に対する結果が、市の平均と比べて各学年で平均を下回っている。  
 ・「体を動かすことが好きですか」の結果で、「好き」「どちらかといえば、好き」と答えた児童の割合で、市の平均を上回る学年がある一方で、市と比べて10%以上も下回る学年もある。  
 ○これまでの学校の取組状況  
 ・体育科では、仲間との関わりを大切に授業づくりを実施してきた。  
 ・体力テストの結果を個票にまとめ、児童・保護者・学校で共有をした。  
 ・縄跳び集会や学校保健委員会などを、健康委員会が中心となって運営し、児童からのアンケートをとるなどして、学校全体の意見を反映させてきた。

今年度の目標

体力面や体づくりのための意識(食事・睡眠・運動)を向上することで、健やかな体の育成を図る。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期  
 ○体づくりの充実  
 ・朝ストレッチや体育学習時の準備運動を年間を通して充実させることで、健やかな体づくりの向上を図る。  
 ・学校保健委員会を通して、体づくり(姿勢、衛生面等)の意識を、児童・家庭・学校が共有をし、向上を図る。  
 ・体力テストの結果や体育意識調査の結果を基に、児童の体力面・意識面の課題を全体で共有し、課題解決に向けて取り組んでいく。  
 ○体力面の向上  
 ・年間を通して朝縄跳びを行い、体力向上を図る。  
 ・外遊びの種類(ボール遊び、用具遊び等)を充実させ、集団や個人、両方の面で体を動かして楽しめるようにする。

下半期